



272人が新たに仲間入り

平成31年2月28日、母校体育館で同窓会入会式が開かれた。新たに入会したのは翌日に卒業式を控えた卒業生272人。河村希典さん(平成2卒)が司会を務めた。

視野を広く持つて進め

まず銭谷真美会長があいさつに立ち、「卒業を祝するとともに、同窓会への入会を歓迎する」と述べた上で、一人一人に語りかけるような口調で、次のように述べた。

「皆さんは多くが秋田で生まれ、秋田で育ち、秋田で学んできたことと思う。部活動や大学受験では県内や他県の高校生が相手だったと思う。ただ、この先の大学や就職では、国内にとどまらず世界各地に場が広がる。学問でも就職でも行政でも同じ、世界が相手である。どうか視野を広く持つて、ものの見方や考え方を多角的で深いものとして、世界の中の日本、秋田、そして自分という意識で世界の平和と、持続可能な成長に貢献できる人材へと育ってほしい」

心震わす出会い大切に

続いて平成2卒で、19年に秋田市に株式会社ゼロニウムを設立し、秋田を代表するコンピューターグラフィックス(CG)制作プロダクションに成長させた、代表取締役の伊藤茂之さんが新入会員に激励の言葉を贈った。

伊藤さんは「卒業おめでとう。皆さんは平成最後の卒業生であると同時に、新しい時代を担う貴重な人材である」と前置きした上で、株式会社ゼロニウムについて「秋田におけるCGのパイオニア的な会社で、秋田初のCGプロダクションである。CGプロダクションが多くあるのはもちろん東京なのだが、秋田にも意外と多くあり、その先頭に立って活動している。」と説明。現在手がけているというプロジェクト「コンマッピングやヴァーチャルリアリティコン

テンツについて、動画を交えながら分かりやすく解説した。

さらに自分が今の道を選んだ理由として、「高校1年生のときにゲーム『ファインナルファンタジー』との心震わす出会いがあった、そのときに受けた衝撃が自分のキャリアデザインのスタートだったといえる」と打ち明けた。そして「仕事に興味を持ち、勇気を持って旅立つことが重要だ。皆さんも心震わせる出会いを大事にして、勇気ある旅立ちをしてほしい。そしてその旅路の先に、いつか故郷へ帰ってくることも視野に入れてもらえたらうれしい。皆さんの来る新時代での活躍を期待しています」と、新入会員へエールを送った。

喜びと強い責任を感じる

その後、同窓会の中村順子副会長から記念品を受け取った新入会員代表の高橋花樺さんが「各界でご活躍される先輩が多くいらっしゃる秋田高校同窓会の一員になると3年生一同、大きな喜びと強い責任を感じている。高校在学中、さまざまな場面で同窓の先輩方からご指導いただき成長することができた。今後は自分たちがその立場となれるよう、全力を尽くしたい」とお礼の言葉を述べた。

そして最後に、応援団OB・紫紺の会の鈴木明夫さん(昭和45卒)のメールで全員が校友会歌を歌い、272人の入会を祝った。



お礼の言葉を述べる高橋花樺さん

「150年史」に情報提供を

「150年史」への情報を求めています。

◆入学時に渡された木札

校章が焼き印され、自分の名前が墨書された木札。いつから始まったか不明です。現在、S33年入学者までは確認されています。それ以前に配布された事実があれば、同窓会事務局にご一報ください。

◆卒業時の記念品

卒業時、同窓会からの記念品の推移を教えてください。今のところ、次の物しか確認できておりません。

- ① S36年卒(男性) 校章入りのバックル(女性) 銀線細工のブローチ
- ② S45年卒(男性) 校章入りネクタイピン
- ③ 時期不明 校章入り文鎮
- ④ 時期不明 USBメモリ

◆太平山登山の写真

特に山頂での写真。

◆修学旅行の内容

実施日や日程、宿泊地、米持参の有無など。

◆駅前校舎の時代にあった新当番に関すること

生徒手帳等に残された授業の1週間の時間割表

- 現在、次の3件は収集済みです。
- ① S54年卒の3年間時間割。
- ② S40年卒の3年間時間割。
- ③ H2年入学の1年次の時間割。

※ ※

これら6件の情報を求めていますので、よろしくお願致します。

(150周年記念誌編集特別委員会・半田和彦)